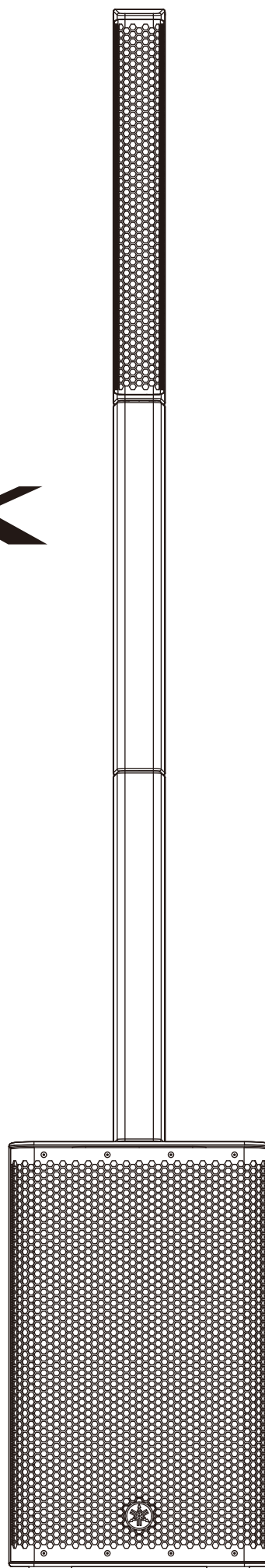




PORTABLE PA SYSTEM

STAGEPAS 1K

取扱説明書



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

本製品は音楽イベントやライブなどで使用する機器です。用途以外の目的では使用しないでください。

取り扱いに不慣れな方や、子供など本書に従って取り扱いできない方が使用する場合は、必ず安全面で責任を持てる方が補助してください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。

お読みになったあとは、本製品を使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」「注記」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度により区分して掲載しています。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

注記

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。

記号表示について

本製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起	一般注意
禁止	禁止 分解禁止 水ぬれ禁止 ぬれ手禁止
必ず実行	必ず実行 必ず接地接続 電源プラグを抜く



警告

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグが破損した場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に水や異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

電源 / 電源コード



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ・ストーブなどの熱器具に近づけない
- ・無理に曲げない
- ・傷つけない
- ・電源コードに重いものをのせない

感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は本製品に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。

故障、発熱、火災などの原因になります。

付属の電源コードは日本国内専用(125Vまで)です。



禁止

付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグのほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

必要に応じて、定期的にほこりを拭き取ってください。



必ず実行

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

火災やショートのおそれがあります。



必ず実行

本製品をコンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。電源プラグに容易に手が届き、操作できるように設置してご使用ください。



必ず実行

- 長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
- 雷が鳴りだしたときは、本製品や電源プラグに触らない。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

接続



必ず実行

- 接地接続は必ず、主電源プラグをコンセントに差し込む前に行なう。
- 接地接続の取り外しは、必ず主電源プラグをコンセントから抜いた状態で行なう。

電源コードには、アース線が付いています。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。

確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

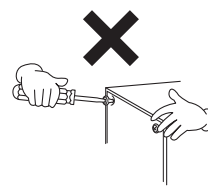
分解禁止



禁止

本製品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。



水や火に注意



禁止

- 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。



禁止

本製品の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

聴覚障害



必ず実行

電源を入れたり切ったりする前に、必ず本製品や接続している機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、本製品をいつも最後に入れる。電源を切るときは、本製品を最初に切る。

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

ワイヤレス機器



禁止

- 医療機器の近くなど、電波の使用が制限された区域で使用しない。
- 心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本製品が発生する電波が動作に影響を与えるおそれがあります。

**注意**

電源 / 電源コード

**必ず実行**

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

設置と接続

**禁止**

不安定な場所や振動の多い場所に置かない。本製品が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。

**禁止**

本製品を子供の手の届くところに置かない。本製品は子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。

**禁止**

本製品の通風孔(放熱用スリット)をふさがない。内部の温度上昇を防ぐため、本製品の背面には通風孔があります。通風孔をふさぐと、製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

**禁止**

本製品を設置する際は、
 ・布やテーブルクロスをかけない。
 ・天面以外を上にして設置しない。
 ・風通しの悪い狭いところへは押し込まない。
 製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。本機の周囲に上30cm、左右30cm、背面30cm以上のスペースを確保してください。

**禁止**

本製品を組み立てた状態で持ち運びしない。スピーカーやスピーサーに頭をぶつけるなど、けがをしたりする原因になります。

**禁止**

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。

**必ず実行**

本製品を移動するときは、必ずすべての接続ケーブルを外した上で行なう。ケーブルをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

**必ず実行**

本製品を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行なう。

本製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、本製品が落下して破損したり、けがをしたりする原因になります。

**禁止**

スピーカーのリアパネルを壁に押しつけない。スピーカーを壁に押し付けると、電源プラグが壁に接触し、電源コードが外れてショートするなど、故障や火災の原因となるおそれがあります。

お手入れ

**必ず実行**

本製品をお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電の原因になることがあります。

取り扱い

**禁止**

本製品の通風孔に手や指を入れない。けがをするおそれがあります。

**禁止**

本製品の上にのったり重いものをのせたりしない。本製品が破損したり、けがをしたりする原因になります。

**禁止**

音がひずんだ状態では本製品を使用しない。本製品が発熱し、火災の原因になることがあります。

注記（使用上の注意）

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- ・ テレビやラジオなど、他の電気製品の近くで使用しない。
本製品、または他の電気製品に雑音が生じる原因になります。
- ・ 極端に温度の高いところや低いところ、ほこりや振動の多いところで使用しない。
本製品のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- ・ 温度変化が激しい場所に設置しない。
製品内部や表面に結露が発生し、故障する原因になります。
- ・ 結露が発生しているおそれがあるときは、しばらく放置してから電源を入れる。
結露した状態で電源が入ると、故障の原因になります。
- ・ 本製品上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
パネルの変色/変質の原因になります。
- ・ お手入れのときは、ベンジン、シンナー、洗剤、化学ぞうきんなどで製品の表面を拭かない。
変色/変質する原因になります。
- ・ バランス出力をアンバランス機器に接続する場合は、各機器間のグラウンド電位を合わせる。
グラウンド電位が合っていないと、故障の原因になります。アンバランス(不平衡)機器接続ケーブルの配線はピン3: コールドとピン1: グラウンドを接続してお使いください。

お知らせ

■ 製品の機能/データに関するお知らせ

- ・ XLRタイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです(IEC60268規格に基づいています)。
1: グラウンド(GND)、2: ホット(+), 3: コールド(-)

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて説明のためのものです。
- ・ IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 廃棄に関するお知らせ

- ・ 本製品は、リサイクル可能な部品を含んでいます。廃棄される際には、廃棄する地方自治体にお問い合わせください。

データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

無線に関するご注意

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ・ この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本機の無線方式について

2.4 FH 8

「2.4」..... 2.4 GHz帯を使用する無線設備
「FH」..... 変調方式は周波数ホッピング (FH-SS 方式)
「8」..... 想定干渉距離が80 m以内

..... 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本機は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を搭載しています。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品のリアパネルにある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(rear_ja_02)

目次

安全上のご注意	2	Bluetooth® Audio を再生する	15
注記（使用上の注意）	5	Bluetooth® 機器を登録する （ペアリング）	15
お知らせ	5	Bluetooth® 機器を接続する	15
はじめに	7	Bluetooth® 機器の音声ファイルを 再生する	15
特長	7	Bluetooth® 機器との接続を切断する	15
同梱品	7	STAGEPAS Editor から リモートコントロールする	16
オプション品	7	STAGEPAS Editor を接続する	16
STAGEPAS Editor について	7	STAGEPAS Editor を切断する	16
各部の名称と機能	8	STAGEPAS 1K を初期化する	17
トップパネル	8	片付けと保管	17
リアパネル	10	困ったときは	18
クイックスタートガイド	12	一般仕様	19
スピーカーアレイ／スパーサーを 組み立てる	12	入力仕様	20
ミキサーにマイク／楽器／ オーディオ機器をつなぐ	12	出力仕様	20
スピーカーから音を出す	12	寸法図	21
STAGEPAS 1K を 2 台組み合わせて使う	14	ブロック図	22
ステレオ再生する	14		
STAGEPAS 1K の インプットチャンネルを拡張する	14		

はじめに

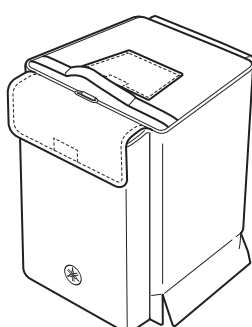
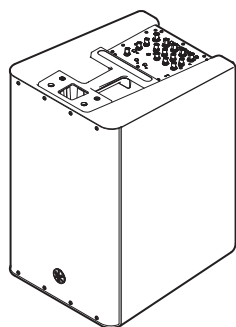
このたびは、ポータブル PA システム STAGEPAS 1K をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本製品は、音楽イベントやライブなどで使用するポータブル PA システムです。この取扱説明書では、ライブやイベントで音響を担当する方に PA システムを設置、接続して音を出すときに、必要な一連の操作方法を説明しています。本製品のさまざまな機能を十分に活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管してください。

特長

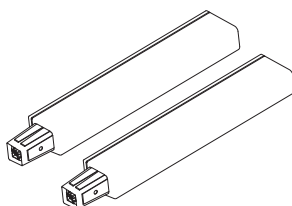
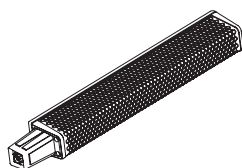
- スピーカーアレイをサブウーファーに差し込むだけの簡単セットアップ
- 広いエリアを均一にカバーするスピーカーアレイ
- 迫力ある低域を再生する 12 インチサブウーファー
- 複数の音声処理を 1 つのノブで行なう“1-knob EQ”など、複雑な処理をシンプルに操作可能とするミキサー搭載
- スピーカーアレイやスぺーサー、サブウーファーを 1 つに収納する機能的なカバーを付属
- より詳細に、より直感的に操作を可能とするソフトウェアアプリケーション

同梱品

- サブウーファー 1 台
- 専用カバー 1 枚



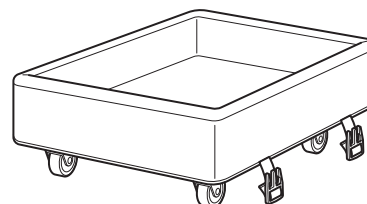
- スピーカーアレイ 1 台
- スぺーサー 2 本



- 電源コード 1 本
- 3 芯 -2 芯変換アダプター 1 個
- 取扱説明書（本書）* 保証書は 24 ページにあります。

オプション品

- STAGEPAS 1K 専用台車 DL-SP1K



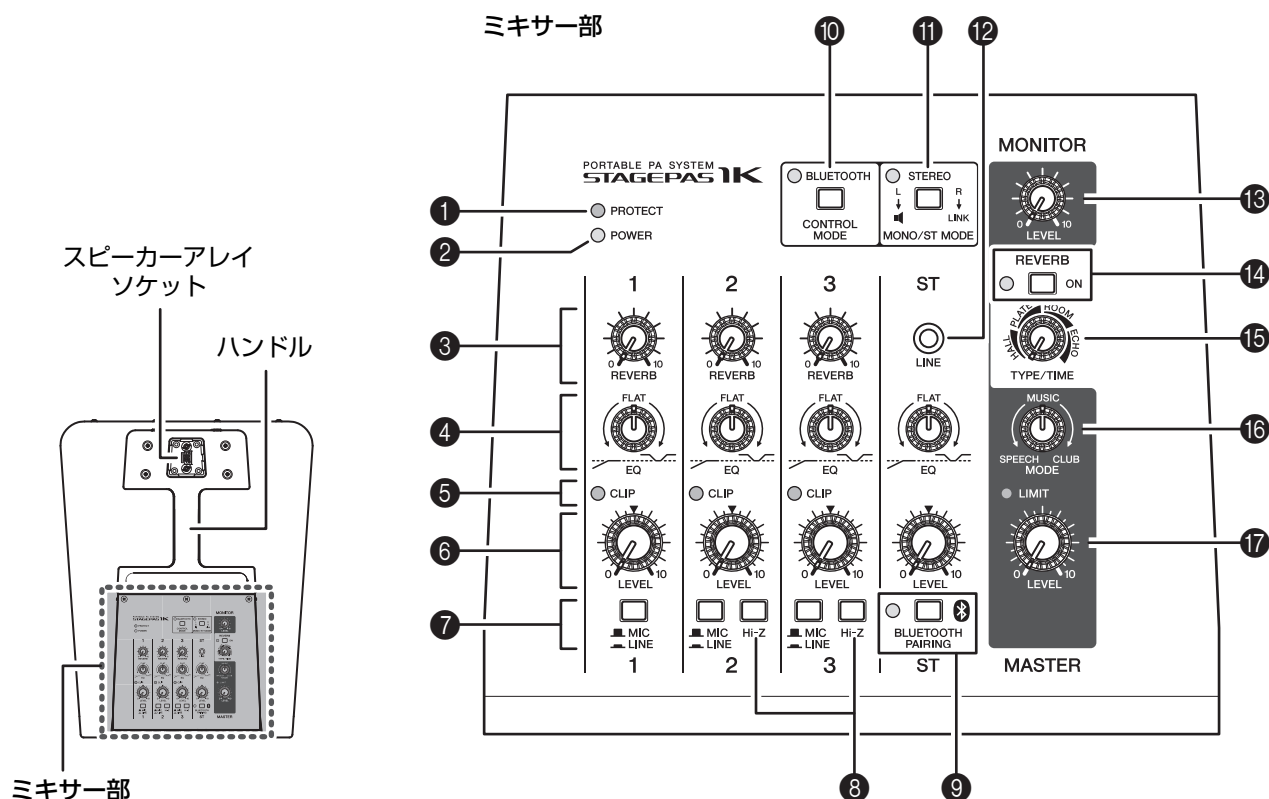
STAGEPAS Editor について

STAGEPAS Editor は、STAGEPAS 1K をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末から Bluetooth を通じてリモートコントロールするためのアプリケーションソフトウェアです。STAGEPAS 1K のパラメーターをコントロールしたり、メーターやインジケーターをモニターしたりできます。また、音楽プレーヤーの機能も搭載しており、弾き語りに便利な“Cued Mode”機能（曲の頭でスタンバイする）も利用できます。

STAGEPAS Editor のダウンロード方法につきましては、ヤマハプロオーディオサイトを参照ください。
<http://www.yamahaproaudio.com/>

各部の名称と機能

トップパネル



① [PROTECT] LED

保護回路が作動すると点灯（赤）します。以下の場合に保護回路が作動し、スピーカーへの出力がミュートされます。

- アンプの過熱を検出した場合
- 過電流を検出した場合
- 電源をオンにした場合：ノイズ防止のため、数秒間、保護回路が作動します。正常に起動するとインジケーターが消灯します。

保護回路が作動した場合、アンプ部の温度が下がるまで待つか、電源を入れ直すと復帰します。復帰しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター（23 ページ）にお問い合わせください。

② [POWER] LED

(26) の [I/O] (電源) スイッチをオンにすると点灯（緑）します。

③ [REVERB] ツマミ (チャンネル 1 ~ 3)

(14) の [REVERB] スイッチがオンの状態で、各チャンネルのリバーブの量を調節します。

④ [EQ] ツマミ

中心 (FLAT) から左に回すと、低域を減衰（カット）します。右に回すと、低域と高域を増幅（ブースト）します。

⑤ [CLIP] LED (チャンネル 1 ~ 3)

過大入力で信号がクリップしたときに点灯（赤）します。点灯したときは、各入力チャンネルの LEVEL を下げるか、[MIC/LINE] スイッチを LINE に切り替えてください。

⑥ [LEVEL] ツマミ

各チャンネルの音量を調節します。ノイズを減らすために、使わないチャンネルのツマミは最小「0」にしておいてください。

⑦ [MIC/LINE] スイッチ

マイクなどの入力信号のレベルが低い機器を接続したチャンネルは [MIC] (■)、電子楽器やオーディオ機器などの入力信号のレベルが高い機器を接続したチャンネルは [LINE] (▲) にします。

⑧ [Hi-Z] スイッチ (チャンネル 2 ~ 3)

電池を使わないエレクトリックアコースティックギターやエレクトリックベースなどの、パッシブピックアップの楽器を接続するときにスイッチをオンにすると、DI (ダイレクトボックス) なしで直接ミキサーに接続できます。この機能はフォーンでの入力時のみ有効です。

⑨ [BLUETOOTH PAIRING] スイッチ / LED

Bluetooth Audio 接続のオン / オフを切り替えます。また、ペアリング (Bluetooth 機器の登録) (15 ページ) で使用します。LED は以下の状態を示します。

LED	ステータス
消灯	Bluetooth スタンバイ状態
点灯	Bluetooth 接続状態
ゆっくり点滅	Bluetooth 端末サーチ状態
早く点滅	Bluetooth ペアリング待機状態

NOTE

STAGEPAS 1K は、最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリング (登録) できます。9 台めの Bluetooth 機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い Bluetooth 機器の登録情報が削除されます。

⑩ [BLUETOOTH/CONTROL MODE] スイッチ / LED

STAGEPAS Editor からリモートコントロールするかどうかを設定します。LED は以下の状態を示します。

LED	ステータス
消灯	コントロール オフ
点灯	STAGEPAS Editor 接続状態
ゆっくり点滅	STAGEPAS Editor 接続待機状態

⑪ [MONO/ST MODE] スイッチ / LED

スピーカーから出力する音声をモノラル (MONO) かステレオ (STEREO) が選択できます。スイッチを押すたびに、MONO と STEREO が切り替わります。STEREO を選択した場合、ステレオ入力された L チャンネルの信号は本製品から出力し、R チャンネルの信号は [LINK] 出力端子を経由してもう 1 台の STAGEPAS 1K から出力します。STEREO を選択すると LED が点灯 (橙) します。

⑫ [LINE] 入力端子

ステレオミニタイプのプラグに対応した端子です。オーディオ機器などを接続します。Bluetooth 機器からの信号が常にミックスされ、ST IN チャンネルに入力されます。

⑬ [MONITOR] ツマミ

(23) の [MONITOR] 出力端子から出力される信号レベルを調節します。[MASTER LEVEL] ツマミの影響は受けません。

⑭ [REVERB] スイッチ / LED

スイッチをオンにすると LED が点灯して、リバーブ (残響音 / エコー) をかけることができます。

⑮ [REVERB TYPE/TIME] ツマミ

リバーブの種類と長さを設定します。ツマミを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。

HALL: ホールなどの広い空間の響きをシミュレートしたリバーブです。

PLATE: 鉄板の響きをシミュレートしたリバーブです。硬めで明るい残響感が得られます。

ROOM: 小さな空間 (部屋) の響きをシミュレートしたリバーブです。

ECHO: ボーカル用途に最適なエコーです。

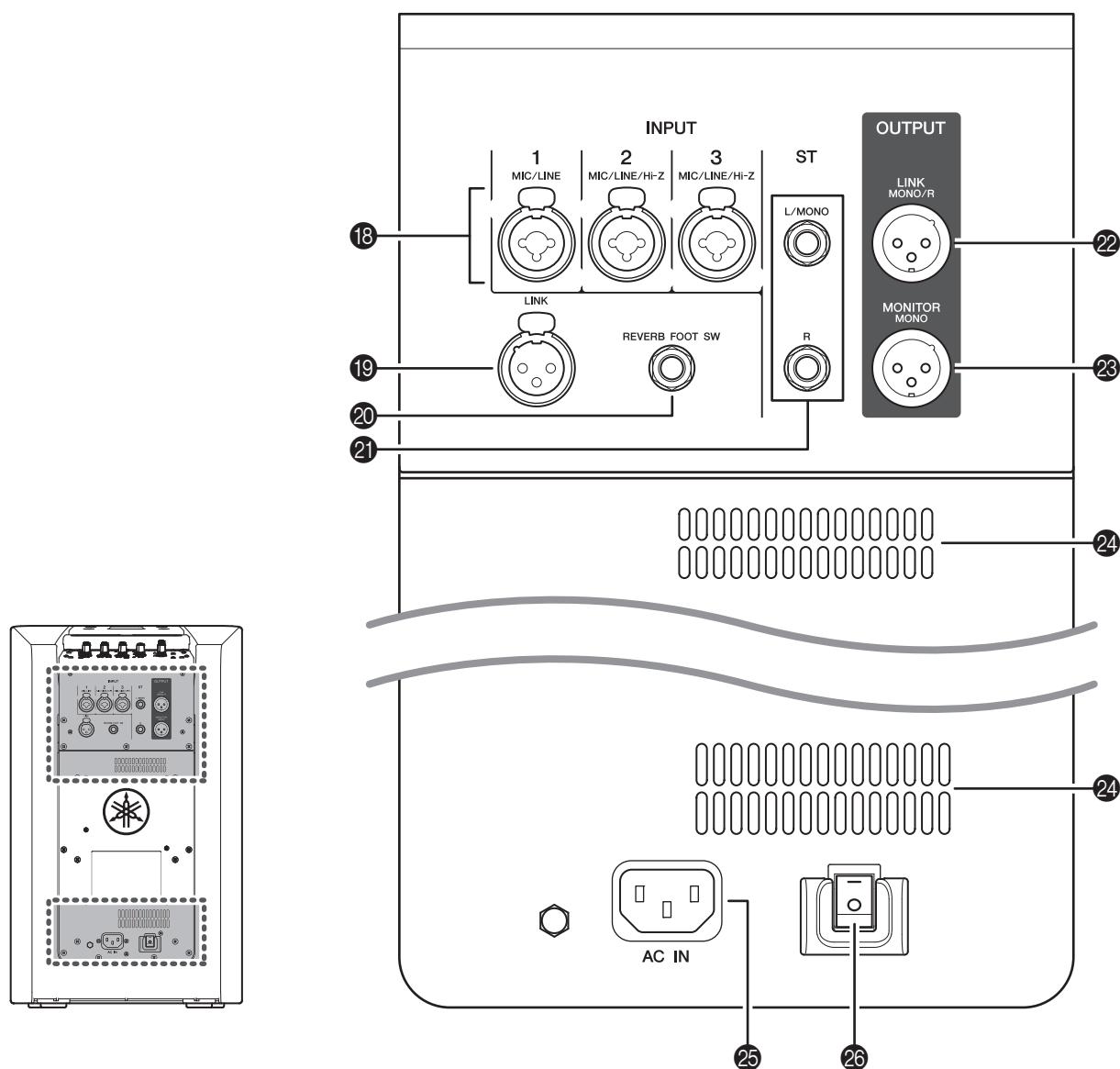
⑯ [MODE] ツマミ

全体の音の音圧を整え、周波数バランスを調節します。センター位置 (MUSIC) を基本として左 (SPEECH) に回すと低音域が抑えられ、生楽器での弾き語りやスピーチに適した特性になります。右 (CLUB) に回すと高音域と低音域が強調され、再生音源などに適した特性になります。

⑰ [MASTER LEVEL] ツマミ

スピーカーから出力される音量と [LINK] 出力端子への信号レベルを連動して調節します。各チャンネルの音量バランスを変化させることなく、全体の音量だけを調節します。リミッターがかかったときに、[LIMIT] LED が点灯します。

リアパネル

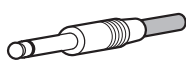


18 マイク / ライン入力端子 (チャンネル 1 ~ 3)

マイク、ギター、電子楽器、オーディオ機器などを接続します。XLR、フォーンの両プラグに対応したコンボ端子です。チャンネル 2 と 3 は Hi-Z に対応しています。



XLR



フォーン

19 [LINK] 入力端子

XLR タイプのプラグに対応した端子です。STAGEPAS 1K を 2 台で使用する場合、1 台めの [LINK] 出力端子と 2 台めの [LINK] 入力端子を接続します (14 ページ「ステレオ再生する」参照)。外部のミキサーなどからラインレベルの信号を接続する場合は、この端子を使用することをお勧めします。

20 [REVERB FOOT SW] 端子

フットスイッチ（ヤマハ FC5 などのアンラッチタイプ）を接続します。リバーブのオン / オフを足元で切り替えられますので、ワンマンパフォーマンスのときに便利です。

21 [ST] 入力端子

フォーンタイプのプラグに対応した端子です。電子楽器、エレクトリックアコースティックギター、CD プレーヤー、ポータブルオーディオプレーヤーなどラインレベルの機器を接続します。
L/MONO だけにケーブルを挿せばモノラル入力として、L/MONO と R と両方にケーブルを挿せばステレオ入力になります。Bluetooth 機器からの信号が常にミックスされ、ST IN チャンネルに入力されます。

22 [LINK] 出力端子

XLR タイプのプラグに対応した端子です。ミックスされた信号を、別の STAGEPAS 1K に出力します。[LINK] 出力端子からの出力は、もう 1 台の STAGEPAS 1K の [LINK] 入力端子に接続してください。別のパワースピーカーを接続することもできます（9 ページ **11** [MONO/ST MODE] スイッチ / LED 参照）。

23 [MONITOR] 出力端子

XLR タイプのプラグに対応した端子です。モニター用のパワースピーカーなどを接続します。モノラルミックスされた信号が出力されます。出力レベルは、**(13)** の MONITOR ツマミで調節します。レコーダーに接続してライブを録音したり、ライブ中継を配信する際に便利です。

24 通風孔

ミキサー内部の冷却ファン用の通風孔です。使用時はふさがないようにしてください。

25 [AC IN] 端子

付属の電源コードを接続します。まず本体と電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。

電源コードを接続したり、取り外す前に必ず電源をオフにしてください。

26 I/O（電源）スイッチ

本体の電源をオン（I） / オフ（O）します。音源（外部機器）、本体、[MONITOR] 出力端子や [LINK] 出力端子に接続した機器の順に電源をオンしてください。電源をオフにするときは、逆の順にオフにしてください。

注記

電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

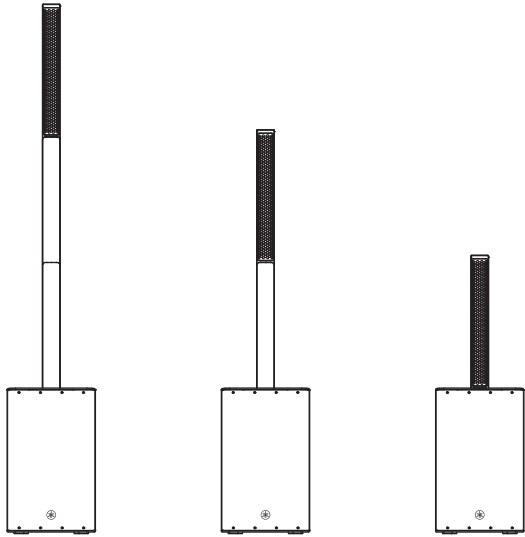
NOTE

電源のオン / オフを連続してすばやく切り替えると誤動作の原因になることがありますので、電源をオフにしてから再度オンにする場合は、5 秒以上の間隔を空けてください。

クイックスタートガイド

スピーカーアレイ／スぺーサーを組み立てる

スぺーサーを使用するなどして、観客の耳と同じ高さにスピーカーアレイを設置します。グリルがついているものがスピーカーアレイです。



スぺーサー 2 本 スぺーサー 1 本 スぺーサーなし

1. スピーカーアレイとスぺーサーを、スピーカーアレイソケットに1本ずつ奥までしっかり差し込みます。スぺーサーは必要に応じた本数を使用してください。

NOTE

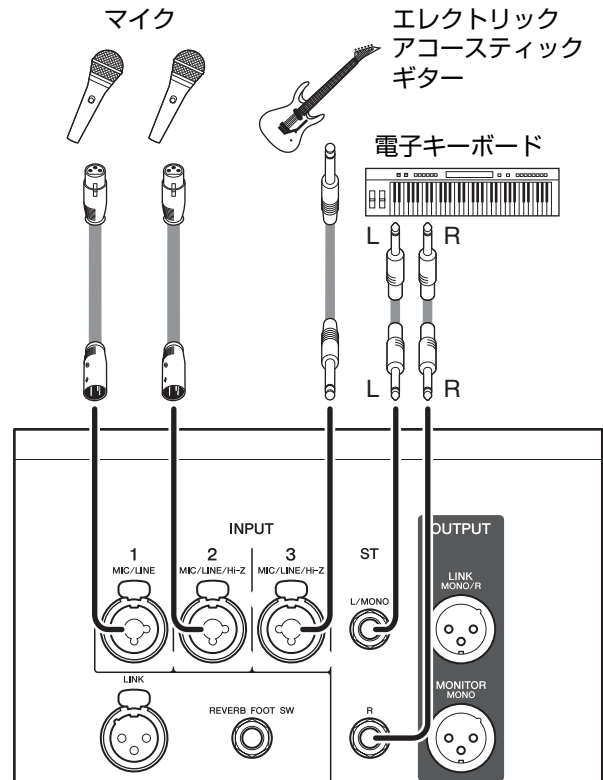
スピーカーアレイやスぺーサーはソケットにしっかりと差し込んでください。端子が十分に接触しないと音が出ない原因となります。



ミキサーにマイク / 楽器 / オーディオ機器をつなぐ

接続をする前に、[LEVEL] ツマミは反時計方向に回し、音量を最小にしてください。

■ 接続例

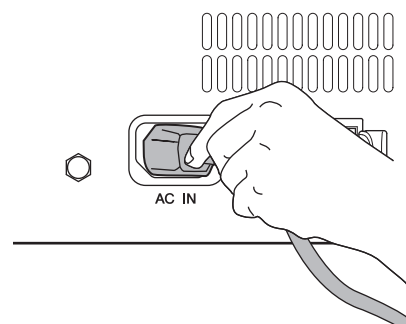


2. マイクや楽器などをミキサーの入力端子に接続します。

スピーカーから音を出す

電源スイッチがオフになっていることを確認します。

3. 付属の電源コードのプラグを本体リアパネルの [AC IN] 端子に接続します。



4. 電源コードのもう一端のプラグを電源コンセントに接続します。



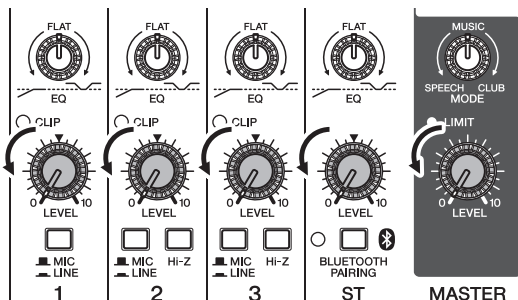
警告

- STAGEPAS 1K は、アース接続を行なうことを前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、付属の電源コードを使ってアース接続を確実に行ってください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。
- 電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。付属の電源コードは日本国内専用（125V まで）です。

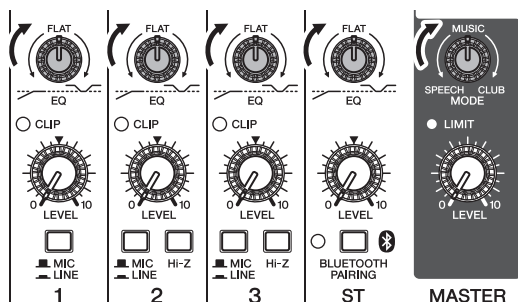
注記

電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

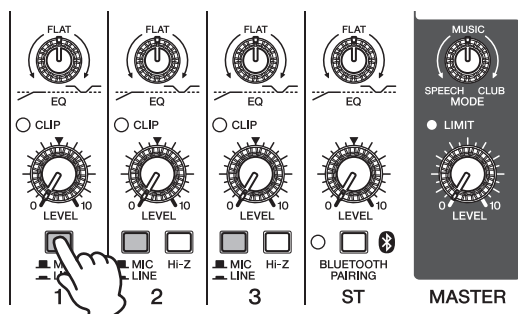
5. MASTER LEVEL (赤のツマミ) と LEVEL (白のツマミ) を「0」に下げます。



6. EQ (緑のツマミ) をセンター位置「FLAT」に、MODE (黄色のツマミ) を「MUSIC」に合わせます。



7. マイクを接続したチャンネルのMIC/LINEスイッチはMIC (■) に、楽器やオーディオ機器などを接続したチャンネルはLINE (■) にします。

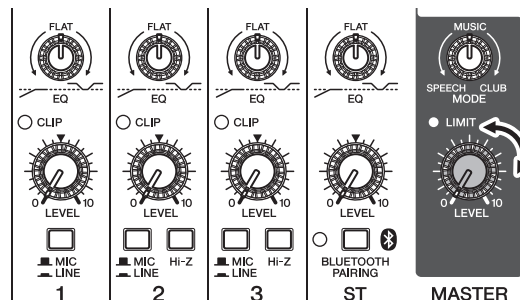


8. 楽器やオーディオ機器などの電源をオンにしてから、本体の電源をオンにします。

[POWER] LED が点灯します。



9. MASTER LEVELを適切な音量に調節します。



10. マイクや楽器で音を出しながら、LEVELで各チャンネルの音量を調節します。

11. MASTER LEVELで全体の音量を調節します。

音が出れば、準備は完了です。音が出ない場合は、「困ったときは」(18 ページ) のチェック項目をご確認ください。

NOTE

電源をオフにするときは、スピーカーから大きなノイズが出ないようにするため、本体→楽器やオーディオ機器の順で電源をオフにしてください。

音量が大きすぎたり、小さすぎたりするときは？

■ 音量が大きすぎるとき

いったん LEVEL で該当するチャンネルの音量を「0」に下げます。MIC/LINE スイッチを LINE (■) に切り替えてから、徐々に LEVEL を上げて音量を調節します。

■ 音量が小さすぎるとき

いったん LEVEL で該当するチャンネルの音量を「0」に下げます。MIC/LINE スイッチを MIC (■) に切り替えてから、徐々に LEVEL を上げて音量を調節します。

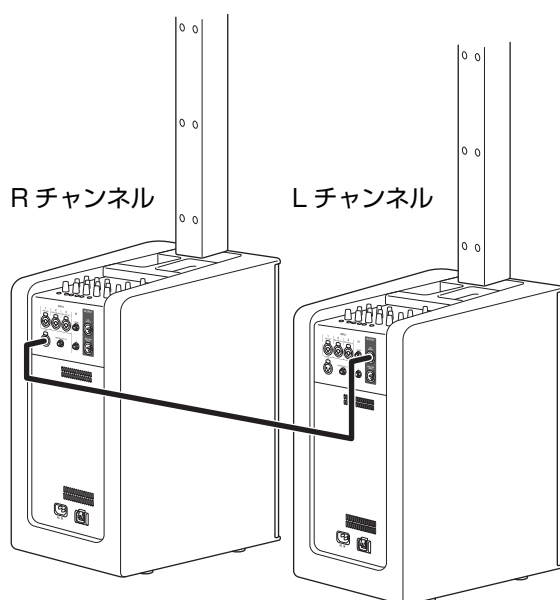
STAGEPAS 1K を 2 台組み合わせて使う

ステレオ再生する

STAGEPAS 1K のスピーカーから出力する音声を 2 台組み合わせてステレオ再生できます。

1. LチャンネルのSTAGEPAS 1Kの[LINK]出力端子と、RチャンネルのSTAGEPAS 1Kの[LINK]入力端子を接続します。

入力チャンネルはLチャンネル側のSTAGEPAS 1Kを使用してください。

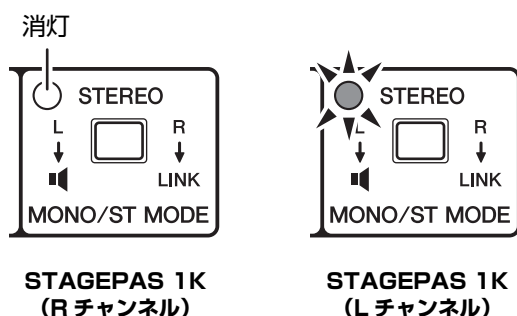


NOTE

Rチャンネル側のSTAGEPAS 1Kの入力端子（チャンネル 1 ～ 3、ST）に接続した信号は、Rチャンネル側のスピーカーのみから再生されます。

2. LチャンネルのSTAGEPAS 1Kの[MONO/ST MODE]スイッチを押して、STEREOモードに切り替えます。

STEREO モードではLED が点灯します。

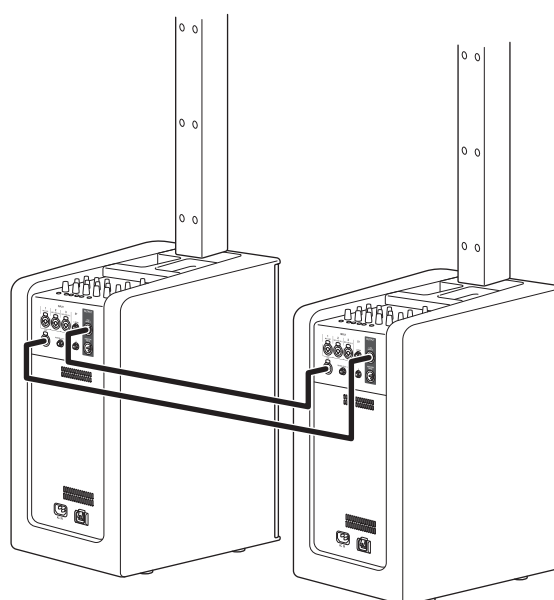


STAGEPAS 1K のインプットチャンネルを拡張する

2 台の STAGEPAS 1K を相互接続することでチャンネル数を倍に拡張できます。

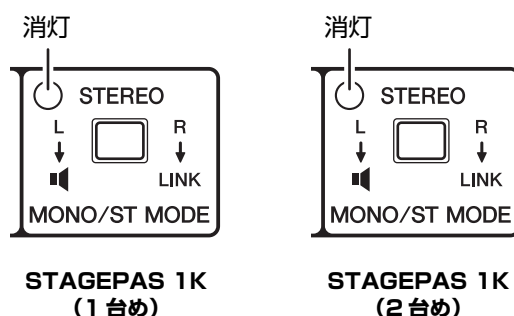
それぞれの STAGEPAS 1K はモノラルとして動作します。

1. 2台のSTAGEPAS 1Kの間で、[LINK]入力端子と[LINK]出力端子を双方向に接続します。



2. [MONO/ST MODE]スイッチを押して、2台ともMONOモードに切り替えます。

MONO モードのときはLED は消灯しています。



Bluetooth® Audio を再生する

モバイル端末などの Bluetooth 機器に保存されている音声ファイルを STAGEPAS 1K で再生します。

Bluetooth® 機器を登録する (ペアリング)

Bluetooth 機器を使って初めて接続する場合は、ペアリングが必要になります。ペアリングとは Bluetooth 機器どうしをあらかじめ登録することです。一度ペアリングすると、Bluetooth 接続を切断してもそれ以降は簡単に再接続できます。

1. [BLUETOOTH PAIRING] LEDが消灯していることを確認してください。点灯または点滅している場合は、[BLUETOOTH PAIRING] スイッチを押し、Bluetooth機能を一度スタンバイ状態にしてください。
2. [BLUETOOTH PAIRING] スイッチを3秒以上押し続けます。

[BLUETOOTH PAIRING] LED が早く点滅し、ペアリングの待機状態になります。



ST

3. Bluetooth機器側のBluetooth機能をオンにします。
詳しい操作方は Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。
4. Bluetooth機器側でBluetooth機器の接続リストが表示されたら、リストから「STAGEPAS 1K AUDIO」を選びます。

NOTE

STAGEPAS Editor の Device Name 設定で名称を変更できます。

ペアリングが完了すると、Bluetooth 接続し、[BLUETOOTH PAIRING] LED が点灯します。



ST

NOTE

- STAGEPAS 1K は、最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリング（登録）できます。9 台めの Bluetooth 機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い Bluetooth 機器の登録情報が削除されます。
- Bluetooth 機器側の設定は、2 分以内に行なってください。

Bluetooth® 機器を接続する

1. [BLUETOOTH PAIRING] スイッチを1秒程度押します。
[BLUETOOTH PAIRING] LED がゆっくり点滅し、端末のサーチ状態になります。
2. Bluetooth機器側のBluetooth機能をオンにします。
自動的に接続が完了すると、[BLUETOOTH PAIRING] LED が点灯します。

NOTE

STAGEPAS 1K が Bluetooth スタンバイ状態（[BLUETOOTH PAIRING] LED が消灯）でも、Bluetooth 機器側の以下の操作により接続できます。

1. Bluetooth機器側のBluetooth機能をオンにします。
2. 接続リストから「STAGEPAS 1K AUDIO」を選びます。

Bluetooth® 機器の音声ファイルを再生する

Bluetooth 機器を操作して曲を再生します。

ST チャンネルに入力されます。

Bluetooth 機器側の音量を大きめに設定してから、ST [LEVEL] ツマミでチャンネルの音量を調整することをおすすめします。

スマートフォンなどの Bluetooth 機器で音声ファイルを再生しているときに、電話やメールなどの着信が入ると、音声ファイルの再生が一時停止される場合があります。一時停止を防ぐには「機内モード」に設定してから、Bluetooth を ON に設定してください。

Bluetooth® 機器との接続を切断する

Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作を行います。

- Bluetooth 機器側で切断操作をする（[BLUETOOTH PAIRING] LED が消灯します）。
- [BLUETOOTH PAIRING] スイッチを押して、Bluetooth スタンバイ状態にする（[BLUETOOTH PAIRING] LED が消灯します）。

注記

電源をオフにするときは、Bluetooth 機能がオフ（[BLUETOOTH PAIRING] LED が消灯）になっていることを確認してください。Bluetooth 機能がオンの状態で電源をオフにすると、ペアリング登録情報を失う場合があります。

STAGEPAS Editor からリモートコントロールする

Bluetooth 対応のスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末上で、STAGEPAS 1K のパラメーターを操作したり、メーターやクリップ情報を表示したりできます。

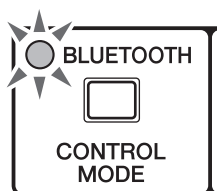
STAGEPAS Editor の操作方法是、STAGEPAS Editor 内の SETTINGS 画面の [User Guide] ボタンから確認できます。

STAGEPAS Editor を接続する

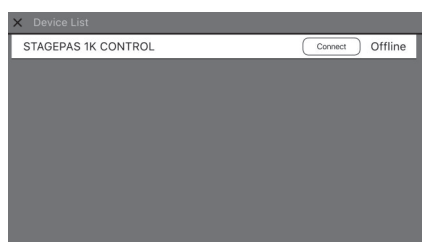
STAGEPAS Editor をインストールした端末を接続します。Bluetooth Audio で接続する機器と異なる機器からもコントロールできます。

1. [BLUETOOTH/CONTROL MODE] スイッチを 1 秒程度押します。

[BLUETOOTH/CONTROL MODE] LED が点滅し、接続の待機状態になります。

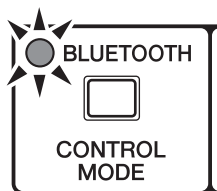


2. STAGEPAS Editor を起動します。
3. Device List 画面が表示されたら、コントロールしたい STAGEPAS をタップします。
コントロール対象の STAGEPAS がハイライト表示されます。



4. “Connect” をタップします。

接続が完了すると、Bluetooth 接続し、[BLUETOOTH/CONTROL MODE] LED が点灯します。



NOTE

一度接続した機器を次回接続するときは、手順 3、手順 4 は不要です。

STAGEPAS Editor を切断する

■ 本体側から切断する

1. [BLUETOOTH/CONTROL MODE] スイッチを 3 秒以上押し続けます。

[BLUETOOTH/CONTROL MODE] LED が消灯し、コントロールオフになります。

NOTE

- ミキサーのパラメーター値は、本体上の操作子の状態に戻ります。
- STAGEPAS Editor でのみコントロールできるパラメータは初期値に戻ります。

■ STAGEPAS Editor 側から切断する

1. STAGEPAS Editor で Device List 画面を表示します。

コントロール対象の STAGEPAS がハイライト表示されます。

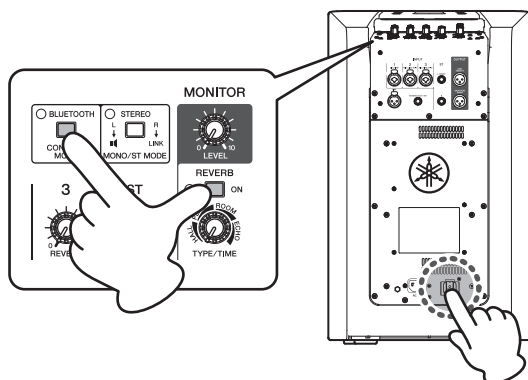
2. “Disconnect” をタップします。

[BLUETOOTH/CONTROL MODE] LED が点滅し、STAGEPAS Editor 接続待機状態になります。ミキサーのパラメーター値は、STAGEPAS Editor で設定した状態が維持されます。

STAGEPAS 1K を初期化する

STAGEPAS Editor から設定したパラメーターや、Bluetooth のペアリング（登録）情報をリセットしたいときなど、工場出荷時の状態に戻したいときは、以下の操作で初期化できます。

1. 電源スイッチをいったんオフにする。
2. [BLUETOOTH/CONTROL MODE] スイッチと [REVERB] スイッチを同時に押しながりパネルの I/O（電源）スイッチを入れます。



初期化実行中は、[POWER] LED、[BLUETOOTH/CONTROL MODE] LED および [BLUETOOTH PAIRING] LED が点滅します。

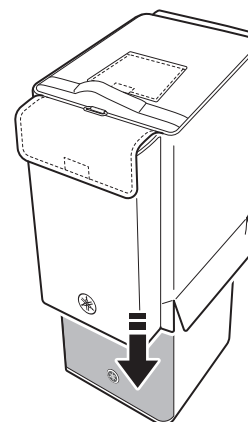
3. 初期化が完了すると、自動的に再起動します。
初期化すると、以下のようにパラメータが変化します。

パラメーター	設定
REVERB	操作子の位置
EQ	
REVERB TYPE/TIME	
MODE	
MONITOR LEVEL	
MASTER LEVEL	
REVERB ON/OFF	初期値 (OFF)
MONO/ST MODE	初期値 (MONO)
BLUETOOTH CONTROL MODE	初期値 (OFF)
Bluetooth Audio のペアリング（登録）情報	すべてクリア
CHANNEL LEVEL*	初期値 (0dB)
PAN*	初期値 (CENTER)
REVERB LEVEL*	初期値 (89(-3dB))
DEVICE NAME*	初期値 (STAGEPAS 1K)
PRESET*	PRESET No. 1 ~ 8 はクリア
PASSCODE*	無効

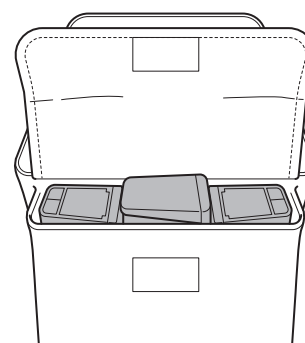
* STAGEPAS Editor でのみコントロールできるパラメーター

片付けと保管

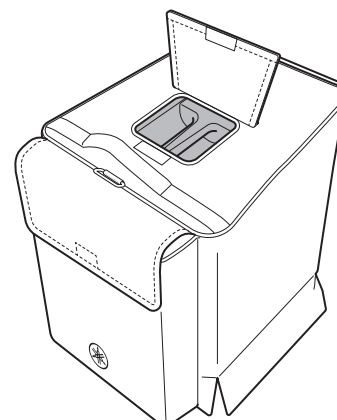
1. STAGEPAS 1Kに付属の専用カバーを上からかけます。



2. ロゴマークのついている側のサイドポケットにスピーカーアレイとスペーサーを収納します。



カバー上部のフラップを開くと、本体のハンドルをそのまま掴んで持ち運びができます。



NOTE

オプションの専用台車 DL-SP1K については、「DL-SP1K 取扱説明書」をご参照ください。

困ったときは

電源が入らない

- 電源コードを奥までしっかり差し込みましたか？

突然、電源が切れた

- ミキサーの通風孔をふさいでいませんか？
放熱が不十分でミキサーに熱がこもると、過熱保護のため電源が切れます。冷却用の通風を確保してから、再度電源を入れてください。

音が出ない

- スピーカーアレイやスパーサーをソケットにしっかり差し込みましたか？
スパーサーやソケットへの差し込みが浅いと、端子が十分に接触せずに音が出ない原因となります。
- [PROTECT] LED が点灯していませんか？
内蔵のパワーアンプに過大な負荷がかかると、保護のためアンプがミュートして音が出なくなります。しばらくすると自動復帰します。

音が歪んだり、雑音が入る

- 各チャンネルの LEVEL や MASTER LEVEL が上がりすぎていませんか？
- [MIC/LINE] スイッチが MIC になっていませんか？
音源からの入力レベルが大きい場合、[MIC/LINE] スイッチを MIC にしていると、音が歪むことがあります。スイッチを LINE にしてみてください。
- ミキサーに接続した機器のボリュームが大きすぎませんか？
外部機器のボリュームを下げてみてください。

音が小さい

- 各チャンネルの LEVEL や MASTER LEVEL が下がりにすぎいませんか？
- 各チャンネルの [MIC/LINE] スイッチが LINE になっていませんか？
LEVEL を「0」にしてからスイッチを MIC に切り替えて、徐々に LEVEL を上げてみてください。
- ミキサーに接続した機器のボリュームが小さすぎませんか？
外部機器のボリュームを上げてみてください。
- STAGEPAS Editor でしか操作できない設定があります。
STAGEPAS Editor で操作してください。

高音・低音のバランスが悪い

- EQ を上げすぎ、または下げすぎていませんか？
EQ をセンター位置にしてみてください。
- スピーカーから高音域は出ていますか？
高音が出ていない場合は、スピーカーアレイがしっかり差し込まれているかご確認ください。

Bluetooth 接続ができない

- 別の Bluetooth 機器と接続されていませんか？
現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください。
STAGEPAS 1K のコントロールと Bluetooth Audio の再生は別の Bluetooth 機器が使えます。
- お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していますか？
A2DP 対応の Bluetooth 機器をお使いください。

Bluetooth の音が途切れる

- 2.4GHz 帯の電磁波を発するもの（ワイヤレスマイクの送信機、無線 LAN 機器、電子レンジなど）がそばにありませんか？
STAGEPAS 1K を電磁波を発するものから離して設置してください。
Bluetooth 機器が無線 LAN 機能も搭載している場合は、無線 LAN 機能をオフにし、Bluetooth 機能のみをオンにしてください。

上記を確認しても、症状が改善しない場合は、ヤマハ修理で相談センターにお問い合わせください。

一般仕様

■ 主要規格

システムタイプ	パワードサブウーファー+ラインアレイスピーカー
再生周波数帯域 (-10dB)	37Hz ~ 20kHz
公称指向角度 (水平 × 垂直)	170° × 30°
クロスオーバー周波数	240Hz
最大出力音圧 (実測値ピーク、IEC ノイズ @1m)	119dB SPL
電源電圧	100V、50/60Hz
消費電力	25W (Idle)、85W (1/8 出力)
寸法 (W×H×D)	システム (最大) 334×2,000×418mm
重量	23.0kg

■ ミキサー部

ミキシングチャンネル数	5
アナログ入力	3 モノ マイク / ライン + 2 モノ / 1 ステレオ ライン LINK IN (MONO)
Bluetooth オーディオ入力	A2DP (SBC、AAC)
コンテンツ保護方式	SCMS-T
Bluetooth バージョン	Ver 5.0
周波数範囲	2,402 ~ 2,480MHz
無線出力	Class 1
無線最大出力電力 (EIRP)	15dBm (32mW)
チャンネル機能	Hi-Z スイッチ : CH2/3
EQ / エフェクター	1-knob EQ : CH/1/2/3/ST MODE (SPEECH/MUSIC/CLUB) 4 タイプリバース (HALL/PLATE/ROOM/ECHO) : CH1/2/3
出力	LINK OUT (MONO/R) MONITOR OUT (MONO)
外部コントロール	リバーブフットスイッチ STAGEPAS Editor (iOS/Android アプリ)

■ アンプ部

定格出力	Dynamic	1000W (サブウーファー : 810W、スピーカーアレイ : 190W)
------	---------	--

■ スピーカー部

形式	スピーカーアレイ : 密閉型 サブウーファー : バスレフ型
コンポーネント	スピーカーアレイ : 1.5" (3.8cm) コーン × 10 サブウーファー : 12" (30cm) コーン
寸法 (W×H×D)	スピーカーアレイ : 67×582×86mm スぺーサー (1 本あたり) : 67×555×86mm サブウーファー : 334×550×418mm
重量	スピーカーアレイ : 1.8kg スぺーサー (1 本あたり) : 0.6kg サブウーファー : 20.0kg

■ アクセサリー

付属品	電源コード × 1、3 芯 -2 芯変換アダプター × 1、専用カバー × 1、取扱説明書
別売アクセサリ	DL-SP1K (専用台車)

* 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

入力仕様

入力端子	端子仕様		Hi-Z SW	MIC/LINE SW	入力 インピーダンス	適合 インピーダンス	入力レベル* ¹		
							感度* ²	ノミナル* ³	最大ノンク リップ
CH IN1	XLR コンボ	XLR	—	MIC	3 kΩ (Balance)	150Ω Mics/Lines	−50 dBu	−36 dBu	−10 dBu
			—	LINE			−24 dBu	−10 dBu	+16 dBu
		Phone	—	MIC	10 kΩ (Balance)	150Ω Mics/Lines	−44 dBu	−30 dBu	−4 dBu
			—	LINE			−18 dBu	−4 dBu	+22 dBu
CH IN2-3	XLR コンボ	XLR	—	MIC	3 kΩ (Balance)	150Ω Mics/Lines	−50 dBu	−36 dBu	−10 dBu
			—	LINE			−24 dBu	−10 dBu	+16 dBu
		Phone	OFF	MIC	10 kΩ (Balance)	150Ω Mics/Lines	−44 dBu	−30 dBu	−4 dBu
				LINE			−18 dBu	−4 dBu	+22 dBu
			ON	MIC	1 MΩ (Unbalance)	10 kΩ Lines	−44 dBu	−30 dBu	−4 dBu
				LINE			−18 dBu	−4 dBu	+22 dBu
ST IN	Phone (TS)* ⁴		—	—	10 kΩ (Unbalance)	150Ω Lines	−18 dBu	−4 dBu	+22 dBu
	STEREO mini		—	—	10 kΩ (Unbalance)	150Ω Lines	−18 dBu	−4 dBu	+22 dBu
LINK IN	XLR-3-31 タイプ		—	—	20 kΩ (Balance)	150Ω Lines	+10 dBu	—	+24 dBu

*1. 0 dBu=0.775 Vrms

*2. INPUT VOLUME=MAX

*3. INPUT VOLUME= ノミナル (Center position)

*4. フォーン：アンバランス型

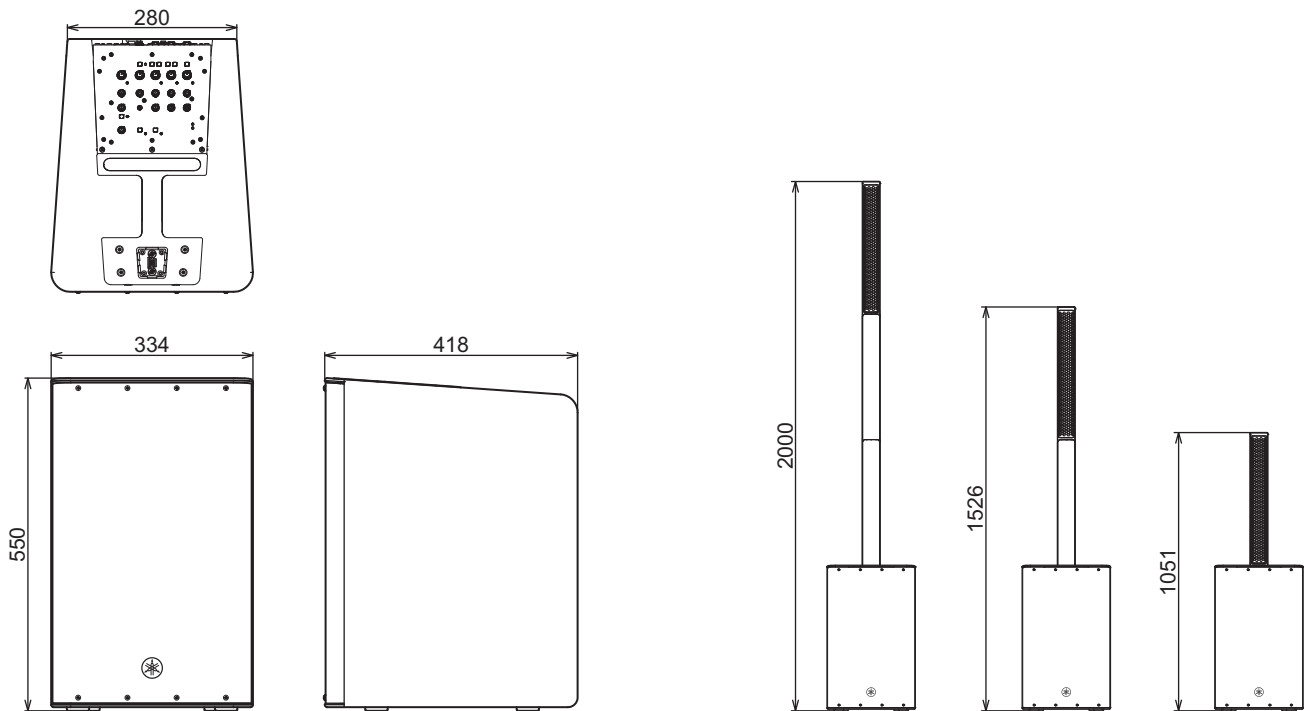
出力仕様

出力端子	出力インピーダンス	適合インピーダンス	出力レベル		端子仕様
			ノミナル	最大ノンクリップ	
LINK OUT [MONO/R]	75 Ω	10 k Ω Lines	+10 dBu	+24 dBu	XLR-3-32 タイプ
MONITOR OUT [MONO]	75 Ω	3 k Ω Lines	+10 dBu	+24 dBu	XLR-3-32 タイプ

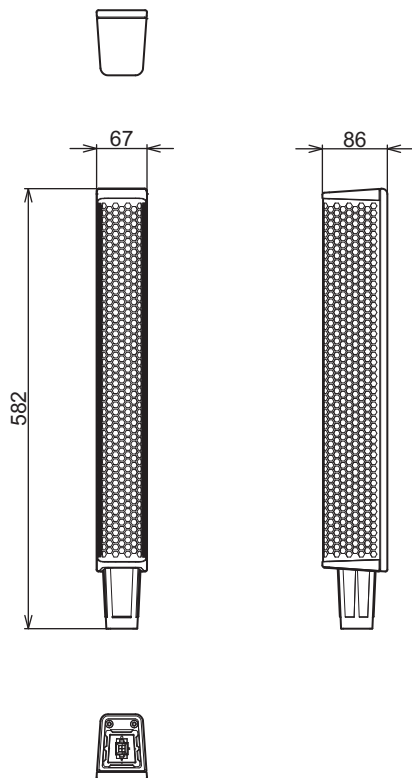
* 0 dBu=0.775 Vrms

寸法図

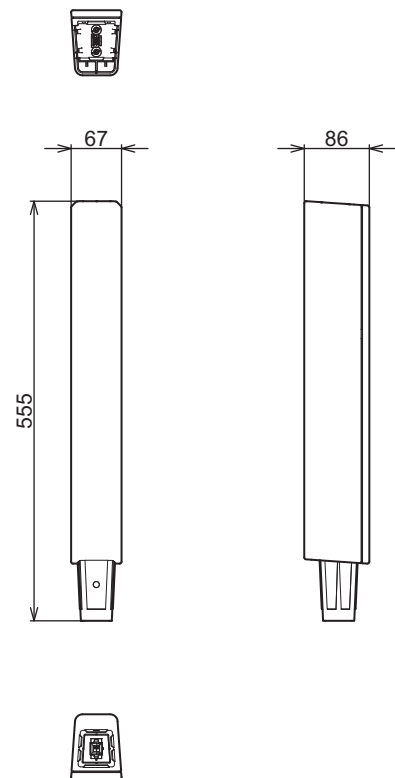
■ サブウーファー



■ スピーカーアレイ

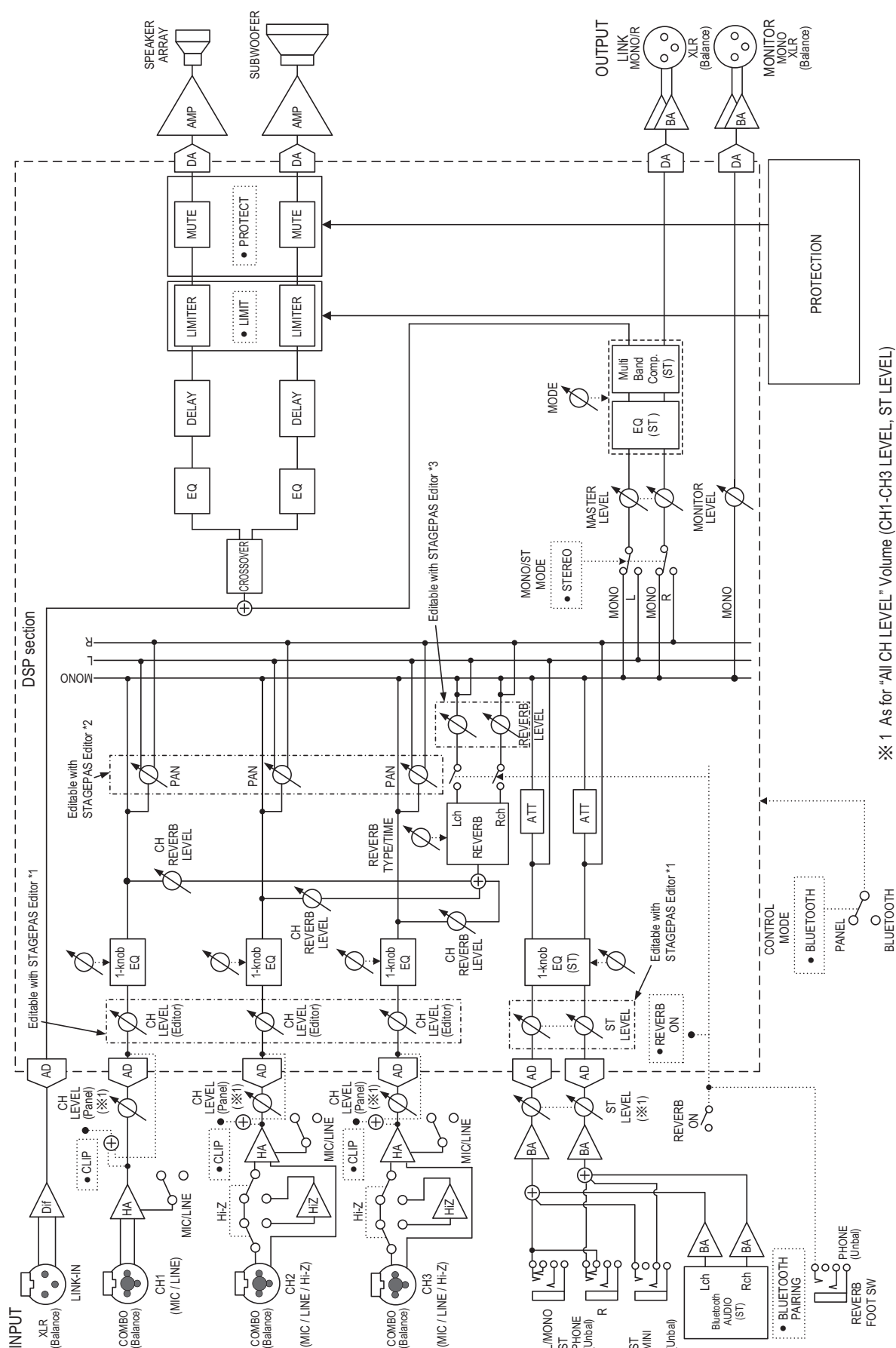


■ スペーサー



単位：mm

ブロック図



※ 1 As for "All CH LEVEL" Volume (CH1-CH3 LEVEL, ST LEVEL)
nominal level : Center click position

*1 At the "Control panel mode", CH LEVEL settings are fixed at 0 dB position.
*2 At the "Control panel mode", PAN settings are fixed at center position.
*3 At the "Control panel mode", REVERB LEVEL settings are fixed at -3 dB position.

アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター



0570-050-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**

受付時間 月曜日～金曜日 11:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

オンラインサポート <https://jp.yamaha.com/support/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

FAX **03-5762-2125** 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)
06-6649-9340 西日本(北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄)

修理品お持ち込み窓口

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17

ナンバ辻本7F

FAX 06-6649-9340

受付時間

月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

●販売元

(株)ヤマハミュージックジャパン PA 営業部

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12

KDX 箱崎ビル1F

保証と修理について

保証と修理についての詳細は下記のとおりです。

●保証書

本書に保証書が掲載されています。購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

●保証期間と期間中の修理

保証書をご覧ください。保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理にお伺いするのは、製品ごとに定められています。

●保証期間経過後の修理

ご要望により有料にて修理させていただきます。

使用時間や使用環境などで劣化する下記の有寿命部品などは、消耗劣化に応じて交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

有寿命部品

フェーダー、ボリューム、スイッチ、接続端子など

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

●修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などをご確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

●損害に対する責任

本製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払いになったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

* 名称、住所、電話番号、営業時間、URL などに変更になる場合があります。

持込修理

保証書

品 名	ポータブルPAシステム		
品 番	STAGEPAS 1K		
※シリアル番号			
保 証 期 間	本 体	お買上げの日から1ケ年間	
※ お買上げ日	年 月 日		
お 客 様	□□□-□□□□		
	ご住所		
	お名前		
	電 話 () 様		

ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入ください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行う事をお約束するものです。
お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示
の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。
ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書
など)をあわせてご提示ください。

(詳細は下項をご覧ください)

※ 販 売 店	店 名	印
	所在地	
	電 話 ()	

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部
〒103-0015
東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX箱崎ビル1F
TEL. 03-5652-3850

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態）で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。

- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

* この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。

* ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。

※ その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト
<http://www.yamahaproaudio.com/>
ヤマハダウンロード
<https://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2019 Yamaha Corporation
2019年6月 発行
IPEI-B0

VDE1910